

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、6月には米国産地での高温乾燥による作柄悪化懸念などから上昇し、一時440セント／ブッシェルを越える水準となったが、天候が回復し作柄が改善する見込みとなったことから下落に転じた。その後、受粉に適した天候が続き、8月12日発表の米国農務省需給見通しで、史上最高の生産量見通しとなったことなどから330セント／ブッシェル前後で推移したが、10月12日発表の米国農務省需給見通しで生産量が小幅下方修正され、当面の弱材料が出尽くしたとの見方から買いが優勢となり、現在は340セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、6月には450ドル／トン前後で推移していたが、米国産地での降雨により米国産大豆の作柄悪化懸念が後退したことから下落に転じ、その後も良好な天候が続き豊作期待が高まったことから軟調となった。8月12日発表の米国農務省需給見通しで、生産量見通しが上方修正され期末在庫が増加したことから軟調な展開が続き、10月12日発表の米国農務省需給見通しでは生産量見通しが上方修正されたものの、期末在庫見通しが市場予想を下回ったため大きな材料とならず、現在は340ドル／トン台となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、6月には30ドル／トン前後で推移していたが、中国むけ大豆や石炭などの輸送需要が増加したこと、原油相場が上昇したことなどから堅調な展開となり、現在は35ドル／トンを超える水準となっている。
4. 外国為替は、6月下旬には107円前後であったが、米国の利上げが見送られたこと、英国のEU離脱決定により世界経済への先行き不透明感が高まったことなどから、100円前後まで円高がすすんだ。その後、米国経済指標の改善を受けた利上げ期待の高まりから円安となり、9月の利上げが見送られたことから円高となったが、12月の利上げ期待から円安がすすんだ。現在は、米大統領選でトランプ氏が勝利したことで一時的に円高となったものの、大型減税とインフラ投資といった経済政策への期待感と12月の利上げ観測の高まりから110円台まで円安がすすんでいる。

